

8 大阪市立K小学校 (大阪府)

学校概要

■ 規模

学級数	13学級
児童数	327人
教職員数	25人

■ 周辺状況・特徴

- 住宅・商店街と町工場等が並び、いわゆる下町地区にあり地域の活動も盛んである。
- 学校に対する愛着が強く住民による「安全な街づくりネット」のパトロール隊が結成され、学校の安全や児童の登下校の見守り活動等が行われている。市採用の「子どもの安全指導員」や区職員の巡回等、多方面の活動が活発に行われ、安全が確保されている。



小学校正門

取組のきっかけ

- 平成13年の小学校侵入事件以後、教育委員会の取組として、学校園の出入口を一箇所に限定するとともに、校門には他の市町村に先駆けて、全ての校園（幼稚園、小学校、特別支援学校）にモニター付きインターホン、オートロック装置又は監視カメラを設置し、大阪府警本部への緊急通報装置を設置するなどの整備を行ってきた。
- 域内の各校においては、「学校園における安全（防犯）対策マニュアル-作成手引書-」（平成13年9月）「学校園における安全（防犯）対策指針」（平成17年4月）に基づいて、独自の「安全（防犯）マニュアル」を作成するなど全教職員が役割分担し、協力して対策を進めている。

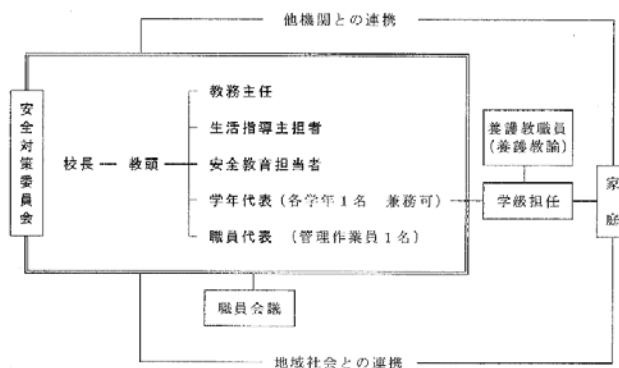


緊急通報装置

検討体制の設置

- 教職員からなる「安全対策委員会」を設置しており、毎年、年度始めに全ての教職員への周知も兼ねて、マニュアルの見直しを図っている。
- また、PTA、地域住民、教育委員会の他、建築計画や防犯対策に関する専門家等の意見を適宜取り入れている。

(1) 安全対策委員会
校内体制・施設の定期的な点検を回り、機動的な危機管理を行う。

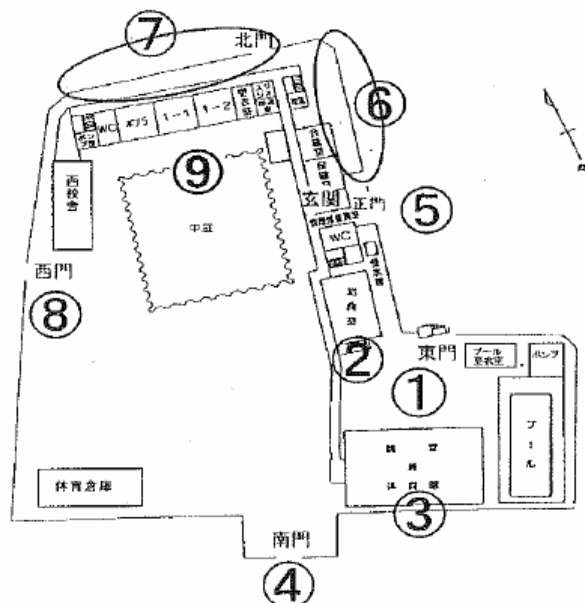


現状の把握と課題の抽出

- 施設面での安全対策の現状について点検を行い、問題点を校内マップに対応させて明記するなど、分かりやすい形で現状把握と問題点の抽出がなさ

れている。

- チェックリストは特に作成しておらず、問題点は校内マップに明記することで情報共有している。



校内マップを用いた現状把握

- このほか、警察官OBによる「子どもの安全指導員」(スクールガードリーダー)が1日1回以上学校の内外を巡回し、防犯に対する専門的な観点から施設や学校周りを安全点検している。

改善措置の実施

- 防犯点検の実施の際に抽出された問題点について、改善方策を「学校安全対策委員会」で検討し、学校施設管理者(教頭)に連絡している。緊急改善で措置できないものについては、学校から教育委員会に相談する。
- 大阪市内では小学校が298校あり、教育委員会としては、個々の学校に応じた対応を行っている。K小学校のように地域の見守りがあり、職員室等から正門を監視できる学校もあれば、防犯カメラなどで監視している学校もある。
- K小学校における措置としては、職員室、管理作業室等のすりガラスを透明ガラスにするなどの整備を行い、学校の出入りする場所の見通しを良くするなどの施設面の改善を行なった。それに加

え、小学校区教育協議会「はぐくみネット」による子どもの安全を守る体制を充実し、子どもの登下校時の見守り活動を実施している。

- すぐに改善できない場合には児童に注意を喚起し、その場所で遊ばせないようにする。巡回重点場所とする注意喚起文書を掲示するなどの措置を行っている。



スクールガードリーダーの安全点検



正門の近くにある学校管理室



校門のインターホン

点検 改善の取組の周知 見直し

- 警察官OBによる防犯教室を実施し、校内に不審者が侵入した場合の対処について訓練を行っている。専門性を生かした指導により、教職員の危機管理の意識の向上を図っている。
- 児童を対象にした防犯訓練では「子どもの安全指導員」にも参加してもらい、訓練の改善点について適宜指導を受けている。
- 年度ごとに安全対策マニュアルを見直すなど、安全対策の重点を再確認している。これは、教員の異動に伴う防犯体制の確認と防犯対策の周知を兼ねている。
- このほか、児童や保護者向けにリーフレットの作成、ホームページの活用等も通じて周知を図っている。

周辺地域との連携

- 学校周辺はいわゆる下町であり、小さな工場が道路に面しているので、不審者に対する地域の警戒は自然と厳しくなっている。また、地域のつながりが強い地域なので防犯に対する意識もかなり高くなっている。
- 小学校区教育協議会「はぐくみネット」や、住民による「安全な街づくりネット」を結成し、子どもの登下校時等の見守り活動を実施している。

今後の課題

- 学校内で死角になっているところは児童に立ち入らないように指導するなど、ソフト面に頼っているところが多い。ブロック塀を金網フェンスにするなど、ハード面の改善が必要なところには出来る限り整備する必要があると考えている。

研究会コメント

- 校内マップに防犯上抽出された問題点を記載し、学校関係者でその情報を共有・活用することで、多角的な視点から点検 改善することができ、防犯対策の充実につながっている。
- 職員室等のすりガラスを透明ガラスにするなど、死角をなくすため可能なところから改善を加える取組がされている。なお死角が多いため、地域の人々の協力を得て、校内及び通学路の巡回や安全点検を行っている。児童の安全確保を地域一体となって進め、開かれた地域の学校となっている。